

B 日 程

〈出典一覧〉

国語	加藤秀俊	『人間関係 理解と誤解』	中公新書
国語	市古貞次	『鑑賞日本古典文学 第26巻 御伽草子・仮名草子「おようの尼」』一部改変	角川書店
国語	鷲田清一	『しんがりの思想 -反リーダーシップ論-』	角川新書
日本史		過去現在絵因果経、部分	東京芸術大学蔵
日本史		薬師寺吉祥天像	薬師寺蔵、奈良県
日本史		高野山聖衆来迎図、部分	高野山有志八幡講十八箇院蔵、和歌山県
日本史		将門の首を運ぶ藤原秀郷の隊列（『俵藤太絵巻』、部分）	金戒光明寺蔵、京都府
日本史		太閤検地（浅野家文書）	山川出版社

問 3

② リーダーシップ論が流行るといのはまことに奇妙なこと、評していること、リーダーシップ論に学ぼうとすることがなぜ奇妙なのか、その理由として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 37

ア リーダーとしてふさわしい風格や実力がなければリーダーシップ論を読むのであって、そもそも資質を欠いているから

イ かつてのリーダーたる者の評伝に学んでいるだけでは、現実の社会的活動には向かないから

ウ リーダーシップ論に書かれていることをそのまま受容するような人は、そもそも組織のリーダーとしてはいないから

エ だれもがリーダーになろうというような集団は集団として機能せず、さまざまな役割をもったひとが必要だから
オ ぶれないこと、明確なヴィジョンを持つことなどのような内容は、リーダーになるようなひとには飽き足らないから

問 4

空欄 X にはいる語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 38

- ア 落ちる
- イ 触れる
- ウ 揺れる
- エ 沈む
- オ 覚える

問 5

③ 「強いリーダー」とあるが、ここでは筆者はどのようなリーダーのことを強いリーダーと捉えているか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 39

ア 「おれについてこい」という統率力のあるひとのこと

イ ものこの決定と責任とをあずけられるひとのこと

ウ 一本の指揮系統で組織をまとめあげられるひとのこと

エ 先頭に立ってみなが一糸乱れず付き従うひとのこと

オ 誰かの指示を待つのではなく先頭に立てるひとのこと

問 6

④ 一人の石垣積み工の語り とあるが、石工の仕事への姿勢のどのような点が、この社会で直面しているほんとうの課題の解決につながるかと筆者は考えているのか、「点」に続くように二十文字以内で記しなさい。なお、「点」は字数に含めない。解答番号は 40

問 7

⑤ 自らが自らに命令することのできる尊さ とあるが、これはどのようなことか、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 41

ア ちまたに転がるリーダーシップ論などはものともせず、ただひたすらに「いい仕事」を行う態度の尊さ

イ 石工の仕事はつらいものではあるが、それを押しつけて「いい仕事」をすれば、誰かの心を打つほどの結果が得られることの尊さ

ウ みなでリーダーになりたがる世の中に逆行するように、ただ一人、だれに命令されるわけでもなく「いい仕事」に打ち込む気持の尊さ

エ 目先の評判をもとめたり利害にとらわれたりせず、石工がこだわりを持って「いい仕事」を貫く姿勢の尊さ

オ 未来のひとが賞賛するような「いい仕事」を、ただ、自らの心のままに満足するように仕上げることの尊さ

問 8

本文の内容に照らして、この出典「しんがりの思想」の空欄 Y にはいるサブタイトルとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 42

ア リーダーの風格

イ リーダー不在への警鐘

ウ 反リーダーシップ論

エ リーダーシップ論を編む

オ 激変期の未来

問 9

本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 43～47

③ リーダーたらんとする者は恥ずかしい仕事、みっともない仕事はできないという矜持をもつべきである

④ リーダーシップ論が流行り、リーダーの登場が待望されるような社会は、尊厳や矜持がうすらいでいる

⑤ 評判の良さや利益を目標とするようなリーダーは、何十年か先の世代にとって、よい存在とはいえない

⑥ 強いリーダーを待ち望むのではなく、集団として機能する縁の下のような力持ちのような存在になるべきである

⑦ 石工のように自分の仕事を通して学び取ることは、リーダーシップ論に追従することと対極の関係にある

問 3

② リーダーシップ論が流行るといのはまことに奇妙なこと、評していること、リーダーシップ論に学ぼうとすることがなぜ奇妙なのか、その理由として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 37

ア リーダーとしてふさわしい風格や実力がなければリーダーシップ論を読むのであって、そもそも資質を欠いているから

イ かつてのリーダーたる者の評伝に学んでいるだけでは、現実の社会的活動には向かないから

ウ リーダーシップ論に書かれていることをそのまま受容するような人は、そもそも組織のリーダーとしてはいないから

エ だれもがリーダーになろうというような集団は集団として機能せず、さまざまな役割をもったひとが必要だから
オ ぶれないこと、明確なヴィジョンを持つことなどのような内容は、リーダーになるようなひとには飽き足らないから

問 4

空欄 X にはいる語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 38

- ア 落ちる
- イ 触れる
- ウ 揺れる
- エ 沈む
- オ 覚える

問 5

③ 「強いリーダー」とあるが、ここでは筆者はどのようなリーダーのことを強いリーダーと捉えているか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 39

ア 「おれについてこい」という統率力のあるひとのこと

イ ものこの決定と責任とをあずけられるひとのこと

ウ 一本の指揮系統で組織をまとめあげられるひとのこと

エ 先頭に立ってみなが一糸乱れず付き従うひとのこと

オ 誰かの指示を待つのではなく先頭に立てるひとのこと

問 6

④ 一人の石垣積み工の語り とあるが、石工の仕事への姿勢のどのような点が、この社会で直面しているほんとうの課題の解決につながるかと筆者は考えているのか、「点」に続くように二十文字以内で記しなさい。なお、「点」は字数に含めない。解答番号は 40

問 7

⑤ 自らが自らに命令することのできる尊さ とあるが、これはどのようなことか、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 41

ア ちまたに転がるリーダーシップ論などはものともせず、ただひたすらに「いい仕事」を行う態度の尊さ

イ 石工の仕事はつらいものではあるが、それを押しつけて「いい仕事」をすれば、誰かの心を打つほどの結果が得られることの尊さ

ウ みなでリーダーになりたがる世の中に逆行するように、ただ一人、だれに命令されるわけでもなく「いい仕事」に打ち込む気持の尊さ

エ 目先の評判をもとめたり利害にとらわれたりせず、石工がこだわりを持って「いい仕事」を貫く姿勢の尊さ

オ 未来のひとが賞賛するような「いい仕事」を、ただ、自らの心のままに満足するように仕上げることの尊さ

問 8

本文の内容に照らして、この出典「しんがりの思想」の空欄 Y にはいるサブタイトルとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 42

ア リーダーの風格

イ リーダー不在への警鐘

ウ 反リーダーシップ論

エ リーダーシップ論を編む

オ 激変期の未来

問 9

本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 43～47

③ リーダーたらんとする者は恥ずかしい仕事、みっともない仕事はできないという矜持をもつべきである

④ リーダーシップ論が流行り、リーダーの登場が待望されるような社会は、尊厳や矜持がうすらいでいる

⑤ 評判の良さや利益を目標とするようなリーダーは、何十年か先の世代にとって、よい存在とはいえない

⑥ 強いリーダーを待ち望むのではなく、集団として機能する縁の下のような力持ちのような存在になるべきである

⑦ 石工のように自分の仕事を通して学び取ることは、リーダーシップ論に追従することと対極の関係にある

第三問 〔選択問題 現代文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

国政・自治体行政を担うにあたってあれ、企業を率いるにあたってあれ、リーダーがリーダーらしくあらねばならないというのはいくらも自明のことであって、これがとくに取り沙汰されるというのは、たとえば首相や首長が、あるいは企業の管理職が、それぞれの場面で現にリーダーとしてふさわしい風格や実力をもっていないことの証左ではないか。が、それ以上に異様なのは、リーダーシップ論が、企業のトップ、あるいは管理者をめざそうというビジネスマンたちのための指南書として流行っていることである。

リーダーシップ関連の本を開くと、たいしては、揺るがぬフィロソフィー（ぶれないこと）とか明確なビジョン、統率力（おれはついてこい）から、「わたしは全部責任をとるから」といった潔さ、社員とのフラットな関係（社員の声をよく聴く）まで、リーダーたる者の心得がマニュアルのように説かれている。ちよっとひねったところでは、「昔話をしない」「大きい会議室が好きならリーダーに部下はついてこない」といったものもある。こうした類の書物に飽き足りないひとは、さらにかつての武將や豪商、政治家の評伝から指導者としての心構えを学ぼうとする。

けれども、みなさんがリーダーになりたがる社会はすぐに覆れるということがある。結果力としなやかさと併せもった集団には、黒子や相談役、脇役や縁の下力持ち、「兵隊」や「駒」が要る。メンバーのそれぞれには表に出たり、裏に回ったり、先に偵察に行ったり、しんがりを守ったりと、じつにさまざまな役割があるのであって、みなさんが「わたしは」としやしりやり出てくるような集団は、組織としては絶対に向く機能するはずがない。だれもがリーダーたろうとする集団は、集団としてはすぐに崩れてしまう。ここに、落とし穴というには丸見えの、一つの落とし穴がある。

次に、リーダー論に素直に従うようなひととほどどリーダーにふさわしくない者はいないという、語るに X 事実がある。リーダー論を読んで、あるいは過去の武將や豪商の評伝を読んで、その教えを呑みこみし、それに従順に従うようなとは、指示待ち、前例踏襲を金科玉条とする（お役所のような）堅牢な組織内の仕事には向くかもしれないが、ひとの先頭に立つような資質は欠けているとしかいようがない。リーダーとは、だれも未だ立ったことのないような見晴らしのよい場所へとひとひとを率いてゆくひとのことだからだ。他人が率いたリーダー論の後をひたすら追うようではリーダーになれない。ここに、逆説というには見易すぎる、もう一つの落とし穴がある。

リーダー論に学ぼうというひとがこのように少なからずいる一方で、リーダーをめくっても一つ喧しいが、みずからリーダーならんとするのはなく逆に「強引リーダー」の登場を待望する声だ。しかし、だれかを先頭に立ててみながそのあとに一糸乱れず付き従うというような行動の絵図ほど、現実の社会的活動にそぐわぬものはない。軍隊のように一本の指揮系統でまとまっている集団は、いったん崩れだすと止めようがないほど脆いものである。独裁者による強権国家その独裁者が追放されたあとどればどの混乱が起こるか、ここ十年ほどのうちでもわたしたちは何度も目にしました。」「リーダーに何もかもおまかせ」というリーダー期待論は、じつところ、決定と責任をひとにあずける、市民のきわめて受動的な姿勢を表わすだけである。

リーダー論、リーダーシップ論というのは、いまわたしたちがこの社会で直面しているほんとうの課題をむしり隠すというふうにしかな機能してないのではないか。そんなふうにしかな見えなくなったときに、わたしが折りにふれて思い浮かべるのは、民俗学者の宮本常一が一人の石垣積み工の語りとして述べてくれた次のような言葉である。

金をほしうてる仕事だが決していい仕事ではない。ことに冬など川の中などでやる仕事は、泣くにも泣けぬつらいことがある。子供は石にじたくはない。しかし自分は生涯それでくらいたい。田舎をあるいていて何でもない田の岸などに見事な

石のつみ方をしてあるのを見ると、心をうたれることがある。こんなところにこの石垣をついた石工は、どんなつもりでこんな心をこめた仕事をしたのだろうと思ってしまう。村の人以外には見てくれる人もいないのに……

しかし石垣つみは仕事をやってけるとやほしい仕事はしたくなる。二度とくずれないような……。そしてそのことだけ考える。つきあけてしまえばそれきりその土地とも縁はきれる。が、いい仕事をしておくとたのしい。あとから来たものが他の家の田の石垣をつくるとき、やっぱり粗末なことではできないものである。まえに仕事に来たものがずつな仕事をしておくと、こちらもついずつな仕事をやる。また、親方どりの請負仕事なら経費の関係で手をぬくこともあるが、そんな仕事をすると大雨の降ったときはくずれせぬかと夜もねむれぬことがある。やっぱりいい仕事をしておくといい。おれのやっ仕事は少々水でくずれるものかという自信が、雨のふるるときにはわいてくるものだ。結局いい仕事をしておけば、それは自分ばかりでなく、あとから来るものもその気持をうけついでられるものだ。

広島県・西条高原の西小屋の近くで出会ったある石工の言葉として、宮本が『庶民の発見』（一九六一年）のなかで記録しているものである。ほめられなくても自分の気のすむような仕事はしたいものだ」とも、この職人は語っている。この言葉を受けて、宮本はこう書きついでいた。「誰に命令せられるのでもなく、自分が自らに命令する」とのことができる職人。この人たちは自分の仕事を通して学びとっているようである」と。

石工は、田舎を歩いていて見事な石の積み方に心打たれ、将来、おなじ職工の眼にふれたときに恥ずかしくないような仕事をしておきたいとおもった。このとき、石工のこだわりはじつに未来の職人に宛てられていた。これに対して、目先の評判や利害ではなく、何十年か先の世代に見られてもついで恥ずかしくない仕事を、というそのような矜持をもって仕事に向かうひとと減ったのが現代である。未来世代のことをまずは案じる、そういう心持ちをほとんど失っているのが現代である。わたしたちはいま、まだ見ぬ未来の世代に対して、この石工のように、恥ずかしい仕事、みつともない仕事はできないかと、胸を

張って言えるだろうか。かえりみて、懐疑のかけらもなく謳われる空疎なリーダーシップではなく、この石工の、他人にわざわざ訴えることもなくみずからしめじみ言ひ聞かせるこのような矜持こそが、激変期にもとも必要な眼であるとおもう。とりわけ現代のように、わたしたちが未来をいくつかの（限界）のほうから考えるほかになくなった時代には。

（監田清一「しんがりの思想」 Y

問1

a・bの読みをひらがなで記しなさい。解答番号は a 34 b 35

34 踏襲 a 35 脆い b

問2

36 指南書とあるが、(1)では何を知らするためのものか、本文中の語句を用いて十字以内で記しなさい。解答番号は 36

問1 空欄 X にあてはまる語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。
解答番号は 19

- ア めり イ らめ ウ かし エ けめ オ なむ

問2 誰かは扱ひ参らせん を、「扱ひ」の内容を具体的に示して現代語訳しなさい。解答番号は 20

問3 問こしめて の説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 21

- ア 「聞く」の尊敬語 イ 「飲む」の尊敬語
エ 「求む」の謙譲語 オ 「与ふ」の謙譲語
ウ 「治む」の尊敬語

問4 なかなか堪忍なるまじく候ふ の意味として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 22

- ア なまじく 耐えることはできません
イ 中途半端な我慢はしない方がよいでしょう
ウ 決して許されることなどありません
エ さすがにこらえられないものではありません
オ かねて堪え忍ぶことができましたか

問5 ありがたくも思しめし候ふものかな の意味として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 23

- ア 難しくお考えでいらつしやるものですね
イ またとなく尊くお考えになるものですね
ウ 生き長らえにくくお思いになるものですね
エ 面目なく思われてお仕えるものですね
オ 恐れ多くも仏に召されるのをお待ちなのですね

問6 然るべからん御方 と想定される人物の、別の表現として、もっとも適切なものを点線部 a～e の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 24

- a 坊主 b かひがひしき弟子 c 阿弥陀仏 d おようこときの者 e 心ざしある者

問7 あふぎ には、「扇」という語と共に、別の語が重ねられている。その語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 25

- ア 多き イ 青き ウ 大樹 エ 負ふ義 オ 会ふ儀

問8 この尼が「およりの尼」と呼ばれるようになった経緯を示している箇所を、本文中から三十字以内で抜き出し、はじめの四字を記しなさい。解答番号は 26

問9 坊主がおよりの尼に依頼したのは、どのような人物であったのか、そのことを端的に示している箇所を、本文中から十五字で抜き出し、はじめとおわりの四字を記しなさい。解答番号は 27

問10 本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 28～32

- 28 坊主は、この世が定めのない世であるので、弟子は不要と考えていた
29 坊主は、まだ若年ながらも年をとることへの不安を感じていた
30 およりの尼は、坊主に世話をする者を置くことを熱心に勧めた
31 およりの尼は、坊主に頼まれた人探しを都で行うことにした
32 坊主は、およりの尼に頼んだ者を早く探してほしいと願っていた

問11 『およりの尼』は室町時代に成立した御伽草子の一つだが、この作品と同じ時代に作られたものを、次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 33

- ア 宇津保物語 イ 十訓抄 ウ 新撰菟玖波集 エ 曾根崎心中 オ 山家集

(一) 次の問いに答えなさい。

問1 次の傍線部に相当する漢字を含むものを、それぞれ各群のA～Eの中から一つずつ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は14～16

14 トウテツした理論を述べる
A 伝家のホウトウ
イ 考えが広い層にシントウする
ウ 山の上にそびえるテツトウ
エ 重度のトウショウを負う

15 議論がフンキョウする
A 火山のフンカ
イ 冷淡な反応にフンガイする
ウ 国際フンソウが続く
エ 不服そうなコウフン

16 市民生活にカン元する施策
A 優勝旗の返カン
イ カン闘賞に輝く
ウ 諸般の事情をカン案する
エ 勝利にカン喜する

問2 次の空欄 X にはいるものを、A～Eの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は17

X の子を散らす
A 鳥 イ 猫 ウ 蟻 エ 蜘蛛

問3 次の傍線部のカタカナに該当する漢字の総画数として、もっとも適切なものをA～Eの中から選び、その記号をマークしなさい。字体は常用漢字として採用されているものとする。解答番号は18

才色兼ビ
A 七画 イ 九画 ウ 十二画 エ 十三画

第二問【読解問題 古文】

次の文章は、都の白川に住む僧（坊主）の元へ、ある尼（およ）が訪れ、自分の仕事について語り、あることを提案する場面である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語句については、注を参照しなさい。

かくておよう申しけるは、「さてもいたはしや、見参らせ候へば、御年もたくふさせ給ひ候ふが、いつとなくたゞ一人住ませ給ひ候ふものかな。さこそ御方は夜もさびしくおほします X。その上若き身の上だに、定めなき世のならひにて候へば、わづらふ事も候ふぞかし。ましてやこの年まで、いつの時、いかなる風邪の御心とも誰かは扱ひ参らせん。湯水をも心安く聞こしめしてこそ往生もめでたかるべき」と情らしく言ひけるに、坊主聞こしめして、

「されば我らもさやうに思ひ候へども、かひがひしき弟子も候はず。我だに過ぐしわび候へば、この見苦しきにて、始めたる者などはなかなか堪忍なるまじく候ふ。うき世いとしこの姿になり候へば、あなちも介錯もほしからず、阿弥陀仏の悲願を頼み、西より来たる秋風の誘はば、やがて露の身の消えなをこそ待ち候へ」とのたまふに、

「ありがたくも思ひ候ふものかな。げにも弟子などもわたり給ひ候はずは、始たる者などは、御心も置かれぬべし。さりながら人の世にあるならひ、身を捨て様をかへぬれば、露の命の消えぬ間、心に任せぬ事のみなり。昔衣、草の袂まで、露にしほれて、霜にやつるならひなり。御洗濯なくともかなふまじ。かかるおようこと、ときの若、わが手に足りたることなきにさへ、なほこのなりに汚れはて候ふぞかし。この住居なりとも、心ざしある者にてだに候はば、菜摘み水汲み薪をとりても、なかは参らせざらん。ただ然るべからん御方も尋ね給ひ、御召し物の縫針をもさせられ、またはいかなる御いたはりの時も、御腰をも心安くうたさせ給ひ候へ」とげにげにしく語りければ、いつしか心弱く聞きなれ給ひて、

「仰せのことく年寄り候へば、明日をも頼み難きことに候ふ。臨終をも心安く介錯し候ふべき者ほしく候ふ。定めなき露の命にて候ふ間、片糸のながらへば、自づから洗濯の縫針をもさせたく候ふ。難波の浦とてもわたるを友と申す事の候へば、さこそ候はめ、いづくにても尋ねて賜せ給ひ候へ」とのたまふに、

「されば今と申すやうに、みづからは人の御用のためにこの姿となり、世を渡り候ふほどに、はじめよりこの有様などやらん御いたはしくおぼえ候ひて、いづくにか然るべき御方を思ひめぐらし候へども、京中にてはさらさら似合はせ給ひたる人おはしまし候はず。いかさま辺土の方でも尋ねてこそ見参らせ候ふべけれ」と出てけるに、坊主庭まで出で給ひ、「いかやうとも頼み申し候ふ。御骨折ながら、とくとく尋ねてたひ候へ」と言ひしが、急がせ給ひけるか、懐より扇を取り出で、「これこれ祝ひて御引出物参らせん。めでたく尋ね出し給ひ、やがてあふきと思ふべし」とのたまふに、「かかる思ひもよらぬ御祝ひかな。さりながらこの扇を給はりなん。御心裏表もなくよまつまにあはせ給ひ、末広がりになせ給ふべき」と互いに急ぎ出でにけり。

(「およりの尼」による)

注

*西より………西方の極楽浄土より。

*菜摘み水汲み薪をとりて………仏道修行に伴う炊事の辛苦。

*難波の浦とてもわたるを友………難波の浦でもどんな浦でも、共に船で渡る者を友とするの意。

問4 Ⅰ段落とⅡ段落、Ⅲ段落との関係述べた説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は④

ア Ⅰ段落では、比喩的に展開したⅠ段落の内容を具体的に説明し、Ⅲ段落でその成立条件を説明している
 イ Ⅰ段落では、キーワードにより説明したⅠ段落の内容を抽象的に言い換え、Ⅲ段落ではそれに対する疑念を述べている
 ウ Ⅰ段落では、Ⅰ段落で新たに展開した内容をさらに展開し、Ⅲ段落で両段落の要点をまとめている
 エ Ⅰ段落では、Ⅰ段落の問題提起を受け、身近な例を挙げつつ説明し、Ⅲ段落で反論を想定した論述をしている
 オ Ⅰ段落は、Ⅰ段落の論の欠落部分を指摘し、Ⅲ段落で逆説の形で補足し、両段落の調整を企図している

問5 空欄 X にあてはまる語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は⑤

- ア 畏怖
- イ 解放
- ウ 迎合
- エ 鼓舞
- オ 静観

問6 空欄 Y にあてはまる表現として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は⑥

- ア ゴルフみたいなもので、それぞれホールに向けてひたすら前進しているだけだ
- イ 将棋みたいなもので、辛抱強く駆け引きをつけて現状打開を狙っているだけだ
- ウ キャッチ・ボールみたいなもので、おなじところをぐるぐる動いているだけだ
- エ 糸電話みたいなもので、常に糸を張った緊張状態を維持して相手と関わるだけだ
- オ ピアノの連弾みたいなもので、息を合わせて不協和音を巧みに避けているだけだ

問7 この種の「おつきあい」にも効用はあるとあるが、その「効用」としてあてはまらないものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は⑦

- ア 新たな人間関係作りのきっかけ
- イ 相互に拘束される関係の回避
- ウ 和やかに談笑し合う関係の維持
- エ 共通の経験を通しての相互発展
- オ 時とともに生成される陶酔の共有

問8 「 Z 」には、「仲間同士互いに励まし合って向上する」という意味の四字熟語がはいる。もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は⑧

- ア 意気投合
- イ 切磋琢磨
- ウ 大同団結
- エ 不即不離
- オ 付和雷同

問9 その可能性とあるが、具体的には何の可能性か、「可能性」に続く形で、二十字以内で記しなさい。なお、「可能性」は字数に含めない。解答番号は⑨

問10 「つきあい」と「おつきあい」についてまとめた次の表の空欄を埋めるものとして、もっとも適切なものをそれぞれの語群から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は⑩

	手段	目的	作用
「つきあい」	あ の世界に触れる 【語群 A から】	人間改造をなす	無意識のうちに作用する
「おつきあい」	い の世界を土台とする 【語群 A から】	人間 <u>う</u> をなす 【語群 B から】	<u>え</u> に作用する 【語群 C から】

- 【語群 A】
- ア 既知
- イ 呼応
- ウ 随意
- エ 創意
- オ 適応
- カ 未知
- 【語群 B】
- ア 確立
- イ 関係
- ウ 支配
- エ 養成
- オ 理解
- 【語群 C】
- ア 依存的
- イ 完結的
- ウ 包括的
- エ 本来的
- オ 類推的

第一問【共通問題 現代文】

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、この文章は一九六六年に刊行されたものである。

共通の話題をさがし出して、にこにこと談笑するのも人間関係のひとつである。しかしわざわざさがさなくても、共通の経験をもつて「おつきあい」のちがいがかわりあう。

たとえば、親しい友人関係というのを考えてみる。友人とはそもそもなんであるのか。われわれが友人をありたい存在として感ずるのは、そこでの人間関係が互いに相互の人間改造をもたらし、ときにはげしい議論をたたかせることもある。【A】場合によっては、ケンカすることもあろう。しかし、友人といふのは、つねに人間を変えてくれる。

もちろん、一夜のうち一人の人間の全人格がかわる、などというとはありえない。かわり方はゆるやかであって、本人同士もその変化に気がつかないのがふつうである。だが、友人によって人間はかわる。「朱にまじれば赤くなる」【B】などというたとえや故事をひきあいに用いるのでなく、友人は人間をかざるのである。

【C】そのような変化の力はどこから出てくるのであろうか。すでに使ってきたことばに即していえば、あたらしい共通項が友人関係のなかでは、もっぱら築造されてゆくからである。自分がいままで知らなかったことを教えられ、あるいは、自分が考えてもみなかったような、異なったものを見方ふれさせてもらう——そんなプロセスの連続、それがほんとうの友人関係というものなのではないか。【D】お互いが手持ちのものを出しあって、おなじカードがあった、といって話をあわせるのでなく、まったく異質なものをだしあって、あたらしいカードをつくるのが、友人であり、そこでは、「おつきあい」が発生するのである。

【E】友人関係だけではない。師弟関係、夫婦のあいだの関係、それらは、すくなくとも理想的にいえば、そのような性質のものである。相互に異質であることの確信がその前提だ。異質であって、それがお互いにとつての刺激になりうるから、人間はつねに他の人間からなにかを学ぶことができる。知識を学ぶこともあろうし、生き方や信念を学ぶこともあろう。もちろん「学び」というでも、べつだん、教室で教科書をよむような種類の学びではなく、ほとんど無意識的な学び方であるのがふつうである。だが「おつきあい」の本質は相互学習ということだ。お互いの異質な刺激が鈍化して、新鮮さがなくなると、それは「なれあい」になったり「マンネリズム」になったり、あるいは「倦怠期」と呼ばれるようになったりする。

【F】賢明なつきあいを維持しあっている人たちは、それを避けるために、つねにべつたりくつきた状態をつくらないような配慮をする。AとBとが親友である、というのは、AとBとがなにをするにもいっしょ、というシヤム双生児みたいな関係にある、ということとはなく、【G】逆にAとBとがそれぞれに自由な時間と活動分野をもっているということだ。そしてそれぞれがその自由な活動のあい間ときとき接触しあうことによって、友人はつねに新鮮でありつづけ、また夫婦もつねに相互刺激的な存在でありうる。いつもいっしょで、べつたり仲良し、というのとは長らくつづけることができない。ふたりの人間が、つねに異質な部分を用意することによってのみ、相互刺激の可能性は持続する。親しい関係、人間改造的な関係は、じつは相互に相手を【X】しあう関係なのであって、相互拘束的なものではない。

いいかえれば、相手方からなにかを学びとることのできる関係というのは、弁証法的な関係なのである。AとBがつねに異質だからといって、AとBとがさすきあがるあたらしい共通項はつねにつくりかえられ、AとBとそれぞれがそれによってつねにあたらしい存在でありつづけることができるのである。「おつきあい」といふのは、そもそもそういう性質のものであった。

【Y】「おつきあい」といってわけ深い「おつきあい」がそのような絶えざる人間改造をふくむものであるのたいてい、【Z】「おつきあい」といふのは、あんまり人間をかえる力をもっていない。たとえば、落語の花見酒にそれは似ている。八つあん、熊さんふたりの人間が酒樽をかついで酒を売りにゆく。途中でのどがかわいて八つあんが熊さんにカネを払っていっぱい酒をのむ。こんどは熊さん

んがカネを八つあんに払う。とうとうふたりでぜんぶ飲んでしまふ。樽いっぱい酒が空切れた。すいぶん儲かったろう、というので財布をあけてみる。しかし、当然のことながら、なんにも残っていない。おなじ貨幣が、ただふたりのあいだを往復していただけなのである。

【共通の話題】がさがし出され、その「話題」をめぐる、にぎやかな会話が進行する過程もそれに似ている。そこでのふたりの人間のやりとりは、結局のところ、【Y】共通項を、たくみな社交術によって「さがす」そして、そのお互いの手持ちの共通項のうえで、いっしょに進歩をふくまない関係がくられ、その一種の足ふみ状態がいつまでもつづく。

もちろん、この種の「おつきあい」にも効用はある。しかし、「おつきあい」の人間関係が連日連夜つづいたら、たいいてい人は、素淡なる感情におそわれるだろう。花見酒がそうであったように、なにがしかの胸醉はあるかもしれぬ。しかし、その胸醉からさめて、いっただい、なにが残ったか、といえはなんにも残っていない——そんな経験を「おつきあい」のなかでもったことのない人は、おそらくいいはずなのである。

共通項を「つくる」立場では、人間が他人と接解することは相互的な変革をふくむ。いさか昔ふうのことばでいえば「Z」の関係がそこではうまれる。人間関係は、人間が成長発展してゆくための手段になる。

これにさかえ、共通項を「さがす」立場では、人間関係それ自身が目標である。要するに、人間と人間が知りあひになればそれでよいのである。「話題」は、その目標に到達するための手段にすぎないのである。そんなふうにとみると、「おつきあい」は「おつきあい」よりひとつ高次の人間関係なのかもしれない。「おつきあい」は、人間が他人と知りあひになるための手段であった。【E】「おつきあい」は、その知りあひになった状態を手段にして、人間がそれぞれにその可能性を展開してゆく過程である。

(加藤秀俊「人間関係 理解と誤解」)

問1 【A】から【E】のいずれかに「むしる」がはいる。もともと適切な箇所を選び、その記号をマークしなさい。解答番号は【1】

問2 友人といふのは、つねに人間を変えてくれる、とあるが、友人による感化を具体的に述べている一文を本文中から抜き出し、はじめの五字を記しなさい。解答番号は【2】

問3 孟母三遷の意味として、もともと適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は【3】

- ア 交際して益のある三種の友人のこと
- イ うわべでは服従し、心の中では反発すること
- ウ 子どもの教育には住環境が大事であること
- エ 目上の者が礼を尽くして人にものを頼むこと
- オ 良いものも悪いものも区別なく入り交じっていること